



保護者各位

拝啓 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本日は、青年期のお子様を髄膜炎菌性疾患から守る重要なワクチンについてご説明するため、ご連絡させていただきました。髄膜炎菌性疾患は稀な感染症であるものの、髄膜炎や敗血症を引き起こす危険な細菌感染症です。このワクチンは、結合型髄膜炎菌ワクチンと呼ばれており、当院および疾病予防管理センター（Centers for Disease Control and Prevention, CDC）では、11歳から18歳の青年全員に対し、理想的には11～12歳の検診時に、このワクチンの接種を推奨しております。

髄膜炎菌性疾患の発生件数は毎年変動します。1998年から2007年の間には、毎年およそ1,500人の米国人が感染し、約9人に1人が死亡しました。特に青年や若年成人は、この感染症にかかりやすいと言えます。実際、髄膜炎菌性疾患の全件数の約15%は、青年および若年成人の間で発生しており、約7人に1人が死亡しています。

特定の生活様式の要因によって、青年および若年成人がこの病気に感染するリスクが高くなります。これらの要因には、集団生活の状況（泊りがけのキャンプ、寮）、不規則な睡眠パターンおよび感染者（感染者自身には疾患の症状が現れない場合もあります）との近密な接触などがあります。

この疾患の初期の症状は、インフルエンザなどのウィルス性疾患と誤診される可能性があります。髄膜炎菌性疾患は、いったん発病すると非常に急速に進行し、48時間以内に死に至る可能性があります。生存者5人のうち最高1人が、脳障害、難聴、痙攣、四肢切断などの後遺症を残します。

髄膜炎菌性疾患の予防については、

敬具



業界をリードするヘルスケア関連団体の協力を得て、全米感染症財団（National Foundation for Infectious Diseases）が提供する公教育イニシアチブです。このプログラムの目標は、疾病予防管理センター（Centers for Disease Control and Prevention）によるサポートを受けています。詳細および協賛団体のリスト、ならびにその他の資料については、<http://stopmeningitis.nfidinitiatives.org>をご覧ください。